

## 地域公共交通計画における数値目標の経過

全体の評価指標	現状 (2021)	目標値 (2026)	経過 (2022見込)	経過の分析
●バス・デマンド型乗合タクシーの利用者数	133,307人	160,000人	145,205人	・感染症の影響緩和で、利用者数が回復した。
●鉄道駅の乗降者数数 (坂出駅、八十場駅、鴨川駅、讃岐府中駅)	3,593,347人 (2020年)	4,461,000人	3,579,951人 (2021年)	普通収入：対前年比165.0% (2019年度比：4.6%) 定期収入：対前年比103.0% (2019年度比：90.6%) 合計：対前年比149.2% (2019年度比：68.0%) ※2022年4～11月までの累計
●バス・デマンド型乗合タクシー全体の収支率	17%	現状より改善	17%	・利用者増による収入増加で、やや回復した。
●バス・デマンド型乗合タクシー全体の収支差	▲134百万円	現状より改善	▲138百万円	・燃料費高騰などの影響で費用が増加したことで収支は悪化した。
●バス・デマンド型乗合タクシーの公的負担投入額(国・県・市の補助合計)	112百万円	現状より改善	122百万円	・燃料費高騰などの影響で費用が増加したことで収支が悪化し、公的負担投入額が増えた。

基本方針に基づく評価指標		現状 (2021)	目標値 (2026)	経過 (2022見込)	経過の分析
方針Ⅰ	●循環バスの利用者数	52,413人	60,000人	56,076人	・感染症の影響緩和で、利用者数が回復した。
方針Ⅱ	●生活利便施設への新たなアクセス件数	—	3件以上	1件	・王越線のルートの一部変更し、ハローズ行きバスの運行を開始した。(R4.10)
	●乗り方教室等のモビリティマネジメントの実施件数	5件	現状以上	9件	・幼稚園・保育園・こども園で8回(予定) ・商店街で1回実施
方針Ⅲ	●新たな企画乗車券の発行	—	実施	未実施	・計画に基づき、実施を検討する。
	●重点維持路線の収支率	17%(島) 19%(王越)	現状より改善	15%(島) 22%(王越)	・瀬戸大橋線は収入の増加を上回る費用の増加があり、収支が悪化した。 ・王越線は費用の増加を上回る収入の増加があり、収支が改善した。
方針Ⅳ	●協議会等の開催回数	2回 (計画策定を除く)	協議会2回以上 分科会2回以上	協議会4回 分科会2回	・計画策定にあたり、協議会・分科会を実施。計画策定後も、分科会・協議会を開催し、PDARUサイクルの実施。
	●地域組織の数	—	2組織以上	1組織と連携	・「王越ささえ♥隊」と連携し、王越地区の生活移動手段確保のために協議を続けている。
	●市主催イベントでの公共交通活用事例数	—	2回/年以上	1回(予定)	・8月に予定されていたトンボ学校は感染症拡大により中止されたが、1月に介護事業の栄養教室での路線バス活用が予定されている。
方針Ⅴ	●GTFSデータのオープンデータとしての公開	—	実施	R4.11 全線で実施	・琴参バス路線を含め、市ホームページでオープンデータとして公開。香川県の協力を得て、香川県オープンデータカタログサイトにも掲載。
	●SNSでの情報発信回数	—	1回/月以上	月1回 (9月以降)	・9月以降で月1回以上、坂出市公式Twitterで公共交通に関連する情報を発信